



コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。



Nさんはギラン・バレー症候群で手足が全く動かなくなりコープリハに入院。トイレまでは自立し退院後も外来リハビリを続け歩けるまでに回復しました。この日は入院中のスタッフと再会。

【リハビリ型病院とリハビリ型老健】
3年前に表題の2機能を1つにまとめ「建もの丸ごとリハビリ」をスローガンに両者の連携は進化しています。これから益々相乗効果を発揮し地域の皆様の健やかな暮らしに貢献してまいります。

【肝心なのは暮らしに戻ってから】
さて、救急や脳外科、整形外科などに入院するほどの重症の病気になる、すぐには元の暮しに戻りません。それに戻るのがコープリハです。しかし肝心なのは元の暮らしに戻らなければなりません。運動機能や認知機能は暮らしの中で適切なリハビリを続けなければ回復しません。逆に言うとならなければ、もとの不自由に帰ってしまいます。コープリハ外来と老健あかねはそれを予防するのが役目です。また、どんなに予防しても高齢者は徐々に機能は衰えます。それに戻るのが老健あかね「リハビリ合宿」です。3ヶ月までの入所を提供しています。今年もコープリハと老健あかねは「リハビリの二人三脚」でまいります。

新年のごあいさつ
〜どう暮らすかを科学する〜
コープリハビリテーション病院・老健あかね
管理者 鍛本真一郎



理学療法士(右)による覚醒刺激に続き言語聴覚士(左)が口からの食事を試みます

【多職種連携】
まず、理学療法士により洗面台の鏡の前で立位補助テーブルを使い立つ姿勢での足底からの刺激を加えしっかりと目を覚ましてもらいます。そのとき鏡に映るご自身の姿をしっかりと

【口から食べる大切さ】
コープリハは脳卒中や骨折後の患者様のリハビリをします。が、脳卒中の麻痺や高齢が原因で口から食べる事が難しくなつた方もたくさんいます。それを点滴や栄養チューブに頼るだけだと抵抗力が衰え肺炎、そして寝たきりと悪循環をたどってしまいます。防ぐ手立ては口から食べるしかありません。
【ワクワクするゴール設定】
Aさんはこれまで大きな病気もなく家で過ごされていましたが、脳卒中で手足の麻痺に加え意識もぼんやりしてしまい食べることはおろか起き上がることもできません。栄養は鼻からのチューブです。そこで私たちは家に帰られる目標「鼻からチューブ卒業」と目指しました。

【自らの手で食べ物をおくへ】
と見てもらいます。その目が覚めた状態で言語聴覚士が口腔ケアや棒つき飴を舐めるなどの刺激を加えます。
【自らの手で食べ物をおくへ】
やがて今まで目を閉じて声掛けにも反応しなかったAさんが、目を開き挨拶や簡単な意思表示も出来るようになりました。嚥下も棒つき飴を見せると自ら手に取り口に入れて舐めるようになりました。覚醒や舌の動きも以前に比べ良くなり嚥下や会話も少しずつ出来るようになりました。

職種を越えたその先に 言語聴覚士と理学療法士とが団子になる

【暮らしに向きあう】
「どう暮らすか」という看護にも共通する目標を実現するには、多職種の専門知識を統合してはじめて可能です。今後患者様とご家族の暮らしが楽になるよう、多職種の連携を強化していきます。
コープリハビリテーション病院
理学療法士 岩本雅司
言語聴覚士 小原 結



耳へ届くほどの肩の柔らかさのある参加者

【自らの手で】
にんにんサロンは寝たきりや認知症の予防を自ら行動したいとの地域住人の思いから2018年4月より開催しました。開始から1年半が経ち、頻度を月1から2回へ増やし、30名前後の方が参加されています。今回は、筋肉の特性、日本人に特有の関節疾患、体力チェック、日常生活での注意点など、講義と実技を交互に行う参加型で開催しました。他の方とも比べながら自らの体と向き合っていました。参加者の感想では「体が軽くなった」「人と会うのが楽しみ」と、サロンの効果は様々な面に表れていました。次年度計画も既に立てておられ、やる気に満ちた活動はまだまだ続きます。

【介護予防は自らの手で】
まだまだ元気な千鳥・福崎町の地域住人
コープリハビリテーション病院
リハビリテーション科
佐藤 雅昭

入院や入所に際して、部屋代はいただいません。

医療・介護の合同事例検討会

「自宅で暮らし続けるために」

院長 鍛本真一郎



訪問看護師 監物かおり
生協ケアマネージャー 平松貴美子
訪問リハ 青木 麻紀



訪問看護の意義を説明する塚本所長

定例の「在宅関連事業所合同事例検討会」を開催しました。発表者は訪問リハビリ、ケアマネージャー、訪問看護の3名です。共通する課題は「退院後の生きがい」です。そのために



「暮らし方」の視点でコメントする田村先生

ハビリが自立を高め、介護サービスが活動の低下を防止します。それでこそ患者様が「ワクワクするゴール」が実現します。そこに至るまでの担当者の根気強さとセンスがうかがえる聞き応えのある会でした。会場には倉敷中央病院救急科の田村暢一朗先生も呼びびし「暮らし方」を医療人も見極め医療以外の支援も知るべき、と評価されました。

地域連携協力医療機関が来訪

毎年、連携医療機関からの来訪を私たちも心待ちにするようになりました。

倉敷中央病院の医療ソーシャルワーカー岡田さんは病院の見学のと、担当された患者様と面会。師長やリハビリスタッフからその後の様子を聞かれました。急性期のあと、どうやって回復するのか興味をもたれていました。



倉敷中央病院 岡田医療ソーシャルワーカー

また、倉敷リハビリテーション病院地域連携室からは岡本医療ソーシャルワーカー



リハビリは「人しだい」。病棟職員の掲示に興味を持って下さった倉敷リハビリテーション病院の岡本医療ソーシャルワーカーと小野入退院在宅支援看護師。

近いものにしてくれます。患者様が安心して療養し、次なる生活への支援に繋いでいけるよう私たちも努力していきたいと思えます。

医療福祉相談・連携室 医療ソーシャルワーカー 田辺 紀子

倉敷中央高校1年生介護実習



お菓子クラブと一緒に餡まん作り



器用な手つきの男性に教えて頂いています

早いもので倉敷中央高校の介護実習をお受けして3年目になります。今年度最後の実習も無事終了しました。今回は1年生の3名で、11月21日から5日間でコミュニケーションと介護技術の見学が中心でした。「非言語的コミュニケーション」「ユマニチュード」という技術を知り、その実際を見る事ができました。1年生にもかかわらず積極性があり、しっかりと利用者の方に関わって、その向けるまなざしと笑顔は素晴らしいかったです。今回の実習で多くを学び、介護福祉

士として活躍したいという思いを新たにすることができたなら大変、嬉しく思います。

老健あかね 介護福祉士 松元 洋行



難しいところは少しお手伝いします

新入職員紹介



コープリハビリテーション病院 外来 看護師 藤井 真美



コープリハビリテーション病院 3階病棟 看護師 川崎 千里



老健あかね 看護師 中川 憂理

診療表					老健あかね [086-446-6541]	
コープリハビリテーション病院 外来受付時間 8:30~12:00 [086-444-3212]					訪問リハビリ	通所リハビリ
外来	装具外来	歯科	短時間通所リハビリ	短期集中健診アップ教室		
午前 9:00~12:30	14:30~15:00	午後	9:00~16:50	9:30~11:00	○	○
月			○		○	○
火	渡辺 (予約制)	(予約制)	○		○	○
水	川村		○		○	○
木	太田	(予約制)	○		○	○
金	飯塚		○		○	○
土				○	○	○

医療福祉相談・連携室		
相談 受付時間	平日	9:00~12:00 13:30~16:30
	土曜日	9:00~12:00
	日・祝日	休み

○お問い合わせ先
倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
老人保健施設 老健あかね
TEL 086-444-3212 (代表)
受付時間 平日 9:00~16:30
土曜日 9:00~12:00 (日祝・年末年始を除く)
〒712-8057
倉敷市水島東千鳥町 1-60
ホームページ: <http://coopreha.jp/>
メールアドレス: info@coopreha.jp
広報委員会
発行責任者 笹舘 勝人

老健あかねは、通所リハビリ・訪問リハビリ・短時間通所リハビリとの連携をしています。